

国鉄斗争を水路とした県内での「はばたこう」運動の出発点

7・2千葉労働者集会に起る

労働運動の復権を勝ちとろう！

「元気をだそう労働者！よみがえれ労働運動！はね返そう大失業時代！七・二千葉労働者集会」が、七月二日（日）一二時三〇分より、船橋市・東部公民館において開催される。

動労千葉にとって、この七・二千葉労働者集会は、一昨年の大会で決定し推進してきた、「全国にはばたこう」運動の、県内における闘いの端緒を拓く決定的に重要な集会です。

県下での新たな潮流の出発点！

つまり七・二集会とは、「千葉における新しい潮流運動の本格的な出発点」なのです。

今日、県下における労働運動の結集体であった県労連センターは解散し、地区労も軒並みその活動を停止させています。これは全て「連合」の発足によって引き起こされました。

現在、社会においては、リストラ、解雇、失業、賃下げ、過労死、権利破壊などが、労働者全体に暴風雨のごとく吹き荒れています。実際、「阪神大震災」被災地では、それが現実のものとして起こっているではありませんか。それは県下においても例外ではありません。こうした支配体制側の大変な攻撃に、「連合」が率先垂範する勢力となつていくことは周知の事実です。社会党もその「党是」をさえ投げ捨て、労働者総体に背を向けてしまうなど、既成政党に何らの展望も見いだせない状況にあります。

噴出する労働者のエネルギー！

しかし明らかに新しい動きは始まっています。「阪神被災地」における被災地労働者の生活をかけた闘い、東京・大阪知事選での青島・横山両氏の当選など、労働者がはつきりと腐敗した政治体制に決別を開始し、自らの力で「職場を、生活を、住居を」獲得せんとする、この運動と闘いの中に、「よみがえれる労働運動」、「よみがえれる労働組合」、労働運動の現状を打開する最先端の変革を実感することが出来る。

大失業時代に抗する労働運動を

日経連・永野の「二〇〇〇万人失業」発言や、戦後の高度経済成長を支えてきた、「年功序列、終身雇用」は資本によって撤廃されようとしている。さらに「労働者保護」法の象徴的存在であった、「労働三法」さえ改悪の動きにある。

まさに「大失業時代」の到来であり、同時に、この攻撃が労働者の階級意識を解体する重層的なものであることを見抜くとなくして、「大失業時代」の労働運動を語ることは出来ない。方針はすでに鮮明に打ち出されている。それは昨年の九・一八労働者集会で提起された、「四つのスローガン」であり、われわれが進めている、「清算事業闘争を中心とした、国鉄闘争を水路とする労働運動」は「全国にはばたこう」運動路線なのです。

導け労働運動のルネッサンス！

この運動こそが、「連合」を食い破り、労働運動の復権！労働運動のルネッサンスをダイナミックに展開するものなのです。われわれは今春統一地方選挙において、県下における「全国にはばたこう」路線を結実させる、水野・中江の勝利を全組合

員の力で獲得しました。さらに大胆に自らの殻を破って闘いに進撃しようではありませんか！勝浦運転区廃止攻撃を断固許さない闘いを、県下の全労働者に訴えようではありませんか！七・二千葉労働者集会に結集しよう！労働運動の未来を切り拓こう！

元気をだそう労働者！よみがえれ労働運動！はね返そう大失業時代！
七・二千葉労働者集会

日時 九五年七月二日（日） 一二時三〇分より
場所 船橋市・東部公会堂講堂
(JR津田沼駅より徒歩三分／パルコ裏)

解雇撤回闘争の勝利へ向けて、中労委「採用差別事件」一十二名の審問再開へ！

六月二二日、「十二名の組合員のJR採用差別事件の審問を再開するための調査が、中労委において行なわれた。この調査は、第一波・第二波スト公労法解雇公判で、十二名の仲間が「解雇無効」の勝利判決をかちとつたことを受けた、動労千葉からの「審問再開の申立て」に基づいて開かれたものである。十二名の仲間たちが、JRに「採用」されなかった理由は、「ストライキで停職二回または六カ月以上の停職処分を受けており、JR社員としてふさわしくない」というものだ。しかし、

解雇処分が解雇権の濫用であり、無効となれば、当然その下の、停職処分も無効であり、JR「不採用」は、その前提から崩れることになる。二二日の調査では、またも、「国鉄改革法上、JRが不当労働行為の責任を負う余地がない以上、何も主張する必要はない」と繰り返すJR側の主張は退けられ、七月二七日十三時より、中野委員長が審問が行なわれることになった。解雇撤回闘争の勝利に向けて、七月二七日、中労委に全力で結集しよう！